

## Mi tercer sitio, Argentina

Mayo cordobesa

皆さま、こんにちは。蒸し暑い毎日ですが、お元気ですか？先日（7月20日）、アルゼンチンでは「友達の日」でしたね。私も現地の友人たちとメッセージを送り合いました。直接会うことは年に1回しか出来ませんが、地球の反対側にいつでもメッセージを送れるなんて、本当にすごいことです。

さてこれまで、ホームステイ先や児童養護施設での体験をご紹介して参りましたが、今回は、今年のゴールデンウィークに“里帰り”したときのことをお話しますね。何と、ガウチョのお宅に泊めていただいたのです！それでは、¡Vámonos!

☆ついに「アルゼンチンの牧場」へ

私のスペイン語の先生であり、良き友人でもある Sonia は Córdoba 州 Rio Cuarto の出身です（ホストファミリーが住んでいる州都 Córdoba からは 200 km ほど南に位置しています）。Sonia からいつも、Rio Cuarto の Campo（農地）で過ごした子供時代の話の聞いたり写真を見せてもらいながら、日本の狭い国土や忙しい毎日からは想像もできないような生活にとっても憧れていました。

Sonia の従姉妹の Griselda は Rio Cuarto の San Bartolomé というエリアの Campo に住んでいて、ご主人がガウチョをしています。メッセージのやり取りを続ける中でかれこれ4年間も、「来年は会いたいです」「来年こそ会いに行きます」と“行く行く詐欺状態”だったのですが、ついに実現できることになったのです！

今年は乗り継ぎが悪い安いチケットを取ったので、羽田から Buenos Aires まで 38 時間。空路で Córdoba へ行き、長距離バスを乗り継いで合計 51 時間・・・さて、長旅の先にどのような景色が私を待っているのでしょうか！

☆私にとってアルゼンチンと言えば、温かくて親切な人々と、そしてアサード

Rio Cuarto のバスターミナルの窓口で乗り継ぎ分のチケットを買ってお財布をしまっているところ、「あなたは日本人ですか？」と老婦人から声をかけられました。一瞬、（このおばあさんはスリの一味か?!）と身構えてしまいましたが、「もしかして、これから San Bartolomé の Griselda の家へ行きますか？」と聞かれたのです！びっくりしました。

「私は彼女の隣の家\*に住んでいるの（※あとで分かったことですが、車で5分かかります）。同じバスに乗るかも知れないって聞いていたのよ。」とのことでした。バスは定刻よりだいぶ遅れてターミナルに来ましたが、親切なおばあさんとおしゃべりしながら待ち時間も楽しく過ごせました。

バスに乗って2時間後。バスの運転手さんから「ここだよ。」と言われて目的地へ着い

たのは22時前でした。Griselda が、「今晚、日本人女性が訪ねて来るから、うちの前で降ろしてあげてね。」とバス会社に連絡してくれていたのです。さらに、運転手さんはターミナルで会った老婦人の従兄弟だったそうで、彼女も自分が降りるときに私のことを念押ししてくれました。私は常にアルゼンチンの皆さんの温かさに助けられています。

街灯がなく、鼻をつままれてもわからないほどの真っ暗闇で、懐中電灯の明かりの中、Griselda とご主人の Facundo にやっと会えました。これまで出会ったアルゼンチンの友人たちと同じく、まるで昔からの知り合いかのように飛び切りの笑顔で温かく迎えてくれたのですが、これは国民性なのでしょうか。いつも感激します。

地球の反対側から51時間かけて到着したにもかかわらず疲れは全くなく、しかもおなかペコペコの私に、Facundo が暖炉で牛肉を焼いてくれました。皆さまご存知、お肉そのものがしっかりとした味を持っている、アルゼンチンの牛肉です。味付けは塩だけ。もう、最高に美味しかったです！！彼らは牛肉にコショウをかけないそうですが、「Mayo が使うなら。」と出してくれたついでに“初めての塩コショウアサード”を食べて、「これはいいね！美味しい食べ方を教えてくれてありがとう。」と言っていました。



(左) 分厚い牛肉を2枚、ペロリ！赤身の味を堪能しました。

(右) Facundo お手製のハムとベーコン。おしゃべりしながら、赤ワインと共に。

☆見るものすべてが新鮮！感動！興味が尽きません！

翌朝は、鳥のさえずりと牛の声で目が覚めました。外へ出てみると、耳に入ってくるのは鳥や牛の鳴き声と風がそよぐ音だけ。そして、“果てしない”という表現では足りないくらいに地平線まで広がる放牧地。一瞬、自分がどこにいるのか分からなくなりました。



(左) 前庭から (中央) tanque、日本で言うサイロでしょうか (右) 夕暮れの放牧地

到着したときは真っ暗闇に加えて濃い霧に覆われていたため何も見えなかったのですが、ガレージにはエストルという名前の“牧牛犬”がいて、家の前には馬車の車輪を再利用した素敵な門がありました。玄関の前には、「みんな大声で呼ぶだけだから誰も鳴らさない（笑）」というベルや、インディオが使っていたという石器が庭にありました。家の外観写真を撮り忘れてしまいましたが、四方を緑（草花）に囲まれた中に白い壁とレンガの屋根がかわいらしい、こじんまりとしたとても素敵なおうちでした。



(左) 誰にも鳴らしてもらえない呼び鈴 (中央) 馬車の車輪をアレンジした門  
(右) この辺りのインディオが穀物をすりつぶすために使っていたという石器

午前中は食材のお買い物ついでに、Griselda が Alpa Corral という観光地（避暑地）へ連れて行ってくれました。彼女は昨年までこの町の小学校の先生をしていたので、道行く人は老若男女問わず「¡Hola, profesora!（先生、こんにちは!）」と笑顔で挨拶し、彼女も「元気？お母さんはどうしてる？」などみんなを気遣っていました。Griselda と立ち話をしていたおばあさんには、「ここはたくさんの外国人が来るけれど、日本人に会ったのはあなたが初めてよ！来てくれてありがとう！」と大歓迎されました。



(左) 橋の上からの眺望 (右) 真夏にこの川は、涼を求める人で溢れ返るそうです

家に帰ったのはお昼過ぎで、午前中の牛の世話を終えた **Facundo** がおなかを空かせて待っていました。お昼ご飯は、大きな豚肉の塊を一時間ほどかけてローストして、**Griselda** 特製のキノコソースをかけたものでした。そして、ラードでじっくり揚げたジャガイモ！今まで食べたことのないサククリとした食感で全く重たくなり、いくらでも食べられました。「普通の油だとジャガイモの中まで浸み込んでしまうけれど、ラードはサククリ軽く揚がる」とのことでした。



(左) ソースに使う干しキノコをすりつぶす **Facundo**

(中央) 幼馴染みだという **Griselda** と **Facundo** は、とても仲良しです

(右) 絶品の特製ソースをかけた豚肉に、付け合わせはカリッとサクサクのジャガイモ

遅めのランチの後は、牛を隣の放牧地へ移動させる仕事に同行させていただきました。何と、21世紀の gaucho はオートバイで牛を追うのです！しかし、山の放牧地へ行くときはオートバイでは無理なので馬に乗っていると言っていました。オートバイに2人乗りして、**Facundo** の背中にしがみつきながら私も牛追いを体験しました。百頭以上の牛の足音と鳴き声、彼らが巻き起こす砂煙、牛を追う **Facundo** の掛け声、牛の集団が乱れないように走り回るエストルの吠える声・・・ものすごい迫力でした。





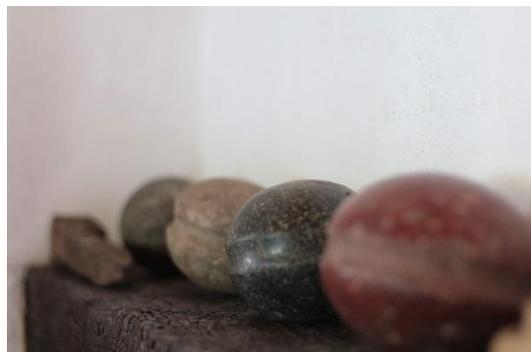
(左上) 最後尾に、オートバイに乗った Facundo が見えますか？

(右上) 片手で Facundo の背中にしがみつきながら、必死に撮った 1 枚です！

(左下) 一日の仕事を終えて、大好きな馬とお話中。

(右下) 牛の集団をまとめながらたくさんたくさん走りまわって、エストルもひと休み。

ところで、日本で言うと 2LDK の間取りの家には、部屋のいろいろなところにガウチョヨならではの物がとてもセンス良く飾られていました。まるで子供のように「これは何？ あれは何？」と聞く私に彼らも楽しそうに説明をしてくれて、「たくさん写真を撮って帰ってね。」と言ってくれました。



(左上) ひづめ (右上) 馬に乗るときに足をのせる馬具 (あぶみ)、奥は木製です

(左下) 家畜の首に付けていたベル。手前から奥に向かって馬用、牛用、羊用

(右下) くぼみにひもを巻き付けて投げる、ガウチョの遊び道具だそうです

☆こんな生活があるなんて

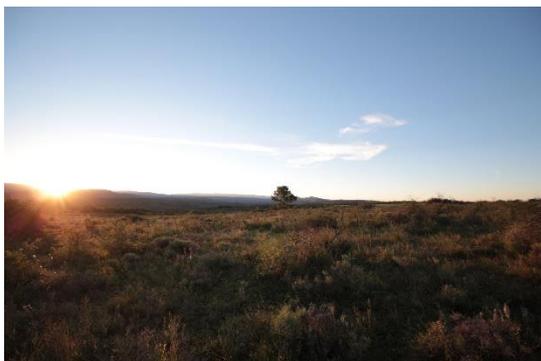
夜になり、「星がきれいだから庭に出てごらん。」と言われて外へ出てみると・・・夜空をびっしりと埋め尽くす星、星、星。（地球から見える星ってこんなにあるの??）と圧倒されてしまい、しばらく動けませんでした。

大自然の中で時間はとてもゆっくりと穏やかに流れていきました。Griselda は授業がありますし、Facundo も牧場の仕事があるので、私は金曜日の夜から月曜日の早朝までしか滞在できませんでしたが、「大自然の中に身を置いて、自然のリズムに沿ってゆったりと暮らした二日間」は北海道出身で東北育ちの私でも日本では経験したことのないくらいに大自然を感じた時間で、心のお洗濯ができたような気持ちになりました。

隣家までは車で5分の距離、食料品は車で20分くらい行けば小さなお店はあるけれど、書店や病院がある町までは2時間かかる場所。でも、ここにしかない景色と時間の流れがある場所。ここで暮らす人にしか分からない大変さは必ずあるはずですが、この場所でしか味わえない幸せの“ほんの一部”に触れることが出来た二日間でした。

東京へ無事に戻った連絡をしたとき、「私たちは Mayo がここの自然の大きさに驚き、とても楽しんでる姿や、あらゆるものを写真に撮っている姿を見ているのがとても楽しかった。あなたのような人に我が家のドアはいつでも開いているよ。」というメッセージをくれて、涙が出てしまいました。

Griselda も Facundo も日本にとっても興味があり、天皇制や政治についてなどたくさんの質問を受けたのですが、その分野の語彙力は全く無いので上手く説明できず非常に悔しくて、申し訳ない思いをしました。今度会うときにリベンジしなくては！



（写真）広大な草原と山の向こうに沈む夕日。馬のいななきと風の音だけを聴きながら眺めたこの景色、そのゆったりした時間を忘れることはないでしょう。

馬の写真は望遠を使っていません。なんと、鼻息を感じながら撮影しました！

Mayo

### 【余談】

1. Córdoba のホストファミリーに Campo で過ごした時間について話していたときのこと。「牛肉は食べた？」と聞かれました。私が「牛肉を1回と豚肉を2回いただいた」と答えると、「それは Campo だから出来ることね。最近は何物の上昇がひどくて、この辺では鶏肉しか買えないのよ。」とのことでした（私が行った4月下旬の両替レートは、1US\$=43 ペソでした）。
2. 南米の中では比較的治安がいいと言われているアルゼンチンですが、それでも、東洋人女性が独りで長距離バスを使って移動することについて、家族や友人からはとても心配されました。当の本人は、（命を取られるほどのことはないでしょ〜。）と気楽に考えていた通り、バスターミナルを含めて怖い思いは一切しませんでした。もちろん、隙のある行動をしないように気を付けていたからということもあります。そして、体格のいいアルゼンチン人が快適に過ごせるように作られている車内ですから、日本人にとっては“オーバースペック”で、広々として非常に快適でした。



（写真）一番後ろの席から見た車内の様子。シートは、幅・足元の広さ・リクライニングの角度など、全てゆったり快適でした。

¡¡Muchísimas gracias, Griselda y Facundo!! Vuelvo a su casa pronto.

